講義名	スポーツマネジメント論					授業形態	
担当教員	山口　志郎	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 ４時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

今日、スポーツを取り巻く社会情勢は、かつてわれわれが経験したことのない速さと多様性を持ちながら、変化と発展を遂げている。これは、インターネットや携帯電話の普及、さらにはブログやSNS（e.g. Facebook, LINE,Twitter）などの情報化社会の進展に伴い、その中で生活する人々の“個性化”と“自由化”が進行し、スポーツへの関わり方も、「する」「みる」「ささえる」などマクロな広がりをみせている。そうした中、2019年から始まった「ゴールデン・スポーツイヤーズ」に向け、スポーツマネジメントは更なる注目が予想される。本授業では、スポーツマネジメントに関する「ヒト・モノ・カネ・情報」といった経営資源をどのようにマネジメントするかを様々な事例を用い、授業を展開していく。また、スポーツマネジメント領域で求められる人材とは何か、授業を通して活発な議論を行う 。

到達目標

本授業では、以下の到達目標の達成に向け進行する。
1）スポーツマネジメントに関する基礎的な知識を習得できるようになる。
2）スポーツマネジメントに関する「ヒト・モノ・カネ・情報」について理解を深めることができるようになる。
3）スポーツマネジメントに関する企画・立案力を習得できるようになる。

提出課題

授業終了後に、その日の感想・質問・ポイント等を小レポート（respon）として提出してもらう。また、最終課題としてレポート課題を課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の小レポート課題は、レポート評価をした後、学生にフィードバックし、レポートの書き方やクリティカルシンキングのための考え方やキーワードを個別または授業全体で解説する。

評価の基準

最終課題（レポート）50%
平常点（毎週の小レポート50%）

履修にあたっての注意・助言他

私語厳禁、提出物の期限厳守、書籍や資料の通読。授業計画は、進行状況により多少前後、変更する場合あり。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.なし.				

その他

プリント資料は必要に応じて配布する。参考図書は以下のとおりである（購入する必要なし）。
1. 「スポーツマネジメント」（原田宗彦・小笠原悦子編著　大修館書店）
2. 「図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント（山下秋二・中西純司・松岡宏高編著　大修館書店）
3. よくわかるスポーツマネジメント（柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著）

授業計画

1. イントロダクション／スポーツマネジメントをめぐる社会的背景
2. マネジメントの使命と方法
3. ヒューマンリソースマネジメント
4. スポーツマネジメントに必要な法知識
5. スポーツ組織・リーグのマネジメント
6. スポーツファシリティのマネジメント
7. スポーツチームのマネジメント①（チーム）
8. スポーツチームのマネジメント②（ファン）
9. スポーツマーケティング
10. ブランディング
11. マーケティングリサーチ
12. トップスポーツ選手のマネジメント
13. スポーツイベントと地域イノベーション
14. 海外のプロスポーツ
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習： 各自次回の講義内容について、インターネットや新聞等を活用しながら自宅学習を実施しておくこと（2時間）。
復習： 講義後に、本講義のまとめの部分を学生に提示するため、その部分の復習を毎回自宅で行うこと（2時間）。
課題：授業の最後に、毎回レポート課題を提示し、授業の最後または次回の授業までに提出すること（2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＜学科共通＞
◇ますます高齢化社会が進む現代社会において、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業することができる。
◆スポーツマネジメントに関連する幅広い対象と健康分野に関連する科目である。また、健康やスポーツ関連産業の動向を理解することも含まれている。そのため、DPに貢献し得る科目である。
＜スポーツマネジメントコース＞
◇「する」「みる」「ささえる」の視点で、スポーツをキーワードとする関連事業分野、業種において企画運営に携わることができる。
◆「する」「みる」「ささえる」の視点が「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」に関連して授業が展開されており、企画運営に関連する授業が展開されている。よって、DPに貢献し得る科目である。
◇健康産業やスポーツ産業などの多様な社会的背景と今後の課題と対応策について、分析、評価、企画を行うことができる。
◆社会的背景と関連した形でスポーツマネジメント論は展開されており、DPに掲げられている分析、評価、企画も理解することができる。
＜スポーツ健康コース＞
◇地域貢献活動などのフィールドワークを通して身につけた、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ力、マネジメント力を発揮することができる。
◆到達目標①、③を達成することで、コミュニケーション能力やマネジメント力を発揮することができるものの、フィールドワーク等の内容は含まれていない。よって、一部DPに貢献し得る科目である。
◇健康保持・増進やスポーツパフォーマンス向上などのための理論や指導法を学び、それを通じて身につけたプレゼンテーション能力に基づく効果的な指導ができる。
◆到達目標①と③を達成することで、健康保持・増進の向上のための理論やプレゼンテーション能力が身につくものの、スポーツパフォーマンスのための理論や指導法は含まれていないことから、一部DPに貢献し得る科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

responを活用した参加型授業やQRコードを読み取り、アンケートに答えてもらいながら、学生の理解を深める授業などを展開する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり：スポーツ関連企業やスポーツイベント、健康関連産業とのネットワークを活かし、ゲスト講義の依頼や現場実習（フィールドワーク）、担当者へのプレゼンテーション機会を創出する。

備考